

平成25年1月10日

平成24年度 知立市まちづくり委員会

第2回 提言書

知立市まちづくり委員会

知立市長 林 郁夫 様

提 言 書

(平成24年度 第2回)

平成25年1月10日
知立市まちづくり委員会

はじめに

知立市まちづくり委員会では、第1回提言書（8月31日）において次の3項目について提案しました。

- ①知立市版ギネスブック[仮称]の創設
- ②永久の愛と感謝の手紙[仮称]の創設
- ③レンタル自転車の活用増進と自転車優先動の設置

この3項目については提言書提出後も引き続き議論を進めておりますが、その中で①と③について、議論の結果を踏まえて再提案いたします。

また、上記3項目以外のテーマについても議論してきましたので、今回、その中から新たに2つの項目をご提案いたします。

ご検討いただき、実現に向けて施策へ盛り込んで頂きますよう、お願いいたします。

提言 2-1 知立市版ギネスブック[仮称]の創設（提言 1-1 改訂）

第 5 次知立市総合計画（後期基本計画）

“ろまんを語れるまち”「子どもを豊かに育むまち」

“まなびのまち”「生涯を通して学習できるまち」の実現に向けた提言

（1）市長による認定

知立市版ギネスブック[仮称]の構成は次ページの図のように、「知立記録データベース」（図中上方右、知立市で1番の記録集）と「成績優秀者データベース」（図中上方左、年度毎の大会・コンテストの成績集）の2本立てを考えています。ここで、「知立記録データベース」における「知立市で1番」であることの価値は、誰がそれを認定したかによって変わり、かつ、この活動を「知立市」への愛着に結びつくためには、市長による認定が不可欠と考えます。本家の「ギネスブック」と同様、競技は様々な団体や個人が主催し、その結果を市長に提出して審査を受け、妥当と認められると市長名で認定証が渡される。そのような形での実現を強く要望します。

当然、無制限に認定するのではなく、市長として認定が可能な主催者の範囲、競技内容、記録の計測方法などのルールを明確にする必要がありますが、市民に根付いたものとするためには、主催者の範囲は可能な限り広く設定することがポイントになると考えます。

（2）認定者の代替案と運営体制

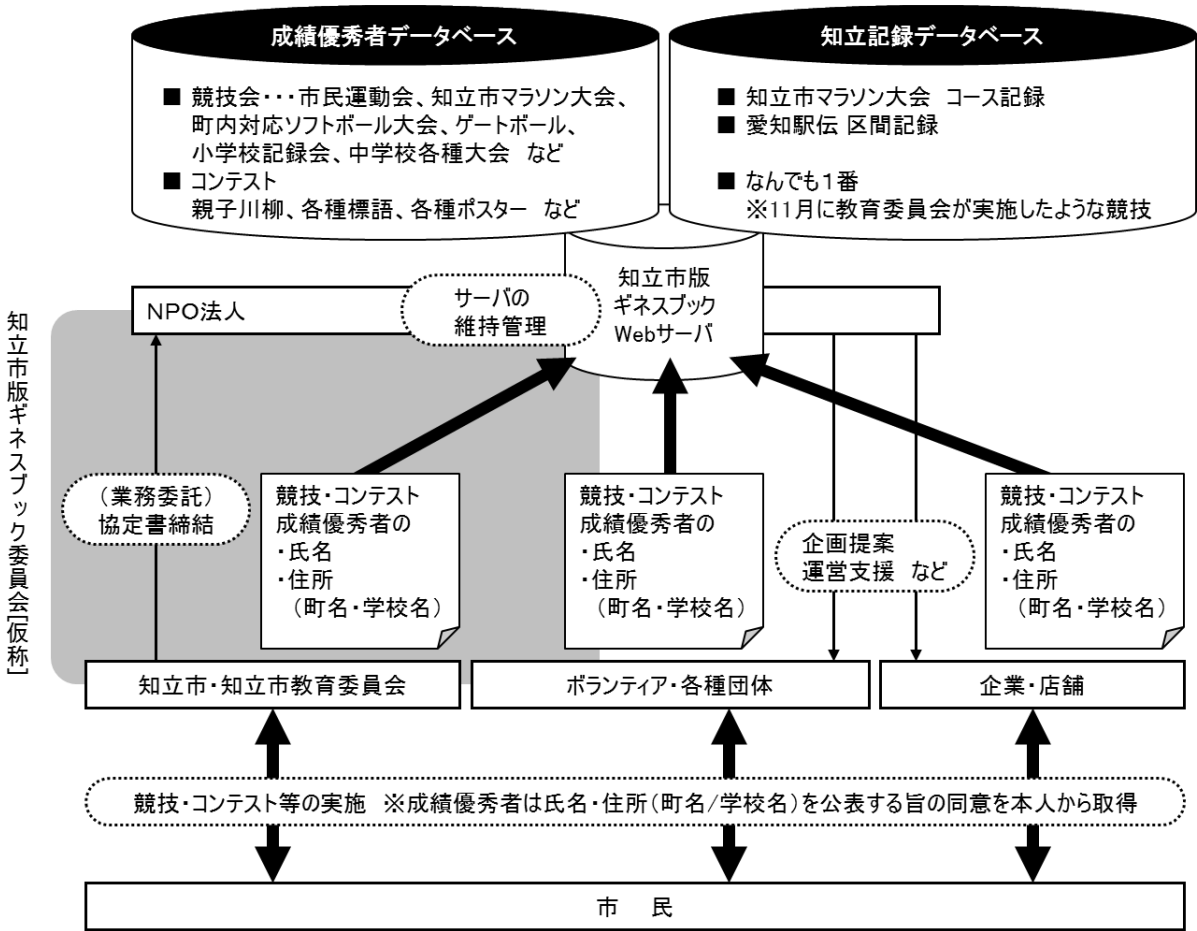
市長による認定が難しい、あるいは、主催者等に対する制約が強すぎて実効性を伴わない場合の代替案として、知立市や各種団体の代表者により構成する「知立市版ギネスブック委員会」[仮称]を設置して委員長には知立市長が就き、この委員会名で認定を行う方法を提案します。

（3）公表媒体とその運営体制

知立市版ギネスブック[仮称]の公表媒体として、コスト面や公表までの時間を考慮し、当面はWebサーバを利用することを提案しますが、将来的に予算が確保できれば印刷物での頒布も是非実現していただいたいと考えます。

また、「知立市版ギネスブック委員会」[仮称]の事務局は市役所内に置くことが望ましいですが、Webサーバの構築・保守を含めた運営の安定性や各種団体への企画提案・競技運営支援などを円滑に進めることが期待できるNPO法人を事務局とする案を併せて提案します。なお、NPO法人が事務局を担当する場合、知立市や知立市教育委員会とは業務委託・請負の関係とすることで、公表情報（個人情報に該当）の提供に対する条例上の問題もクリアできると考えます。

【「知立市版ギネスブック」〔仮称〕の構成と運営体制】



【注釈】事務局を担当するNPO法人として、定款に定められた事業内容や活動状況から「バザール知立」（平成25年2月認定・登記予定）を候補として考えています。

提言 2-2 レンタル自転車の活用増進（提言 1-3 改訂）

第 5 次知立市総合計画（後期基本計画）

“ろまんを語れるまち”「人々が集う交流のまち」の実現に向けた提言

第 1 回提言書では、レンタル自転車の活用増進を「自転車の交通安全」の観点から考え、自転車優先道の設置を提案しました。本委員会としては、自転車優先道はソフト面を中心として対応することを想定していましたが、市として実施するためにはハード面の安全対策を伴わざるを得ないとのことでした。そのため、自転車優先道に関しては名鉄知立駅周辺地域の整備、あるいは、主要道路の改修等の機会に考慮していただくこととし、今回は「レンタル自転車の活用増進」に主眼をおいて提案します。

知立市内には、知立神社、無量寿寺、松並木、遍照院などの観光名所がありますが、名鉄知立駅から距離があり、名鉄を利用して訪れる観光客にとっては移動に不便です。そこで、観光客へのサービスとしてレンタル自転車の充実を提案します。これによって、市外から名鉄を利用して訪れる人の増加が期待できるだけでなく、パティオ池鯉鮒を含めた市内各施設、観光名所の駐車場問題にも関わる施策と考えられ、観光事業、インフラ整備、さらには放置自転車対策などの様々な観点からも、以下に提示する各項目について実現に向けて検討していただきたい。

- レンタル自転車ステーションを知立駅前に加えて、三河知立駅、牛田駅、三河八橋駅周辺にも設置する。
- 自転車屋や駐輪事業者にレンタル自転車ステーションを委託することで新規設置の負担を軽減する。さらに、レンタル自転車の修理作業なども担ってもらうことによって地元事業者との共存を図る。
- レンタル自転車ステーションへの案内をわかりやすくする。知立駅前に設置されている観光案内板に表示する、駅改札口から見えやすい場所に看板を設置する。
- レンタル自転車事業の周知を図っていただきたい。その一つとして、レンタル自転車を派手（例えば市のカラーである紫色）にペイントして広告媒体としても活用する。また、レンタル自転車ステーション委託先の自転車屋や駐輪事業者が増えれば、その店に設置してもらう「レンタル自転車取扱所」等の看板が広告媒体となることも期待できる。
- 市民サービスから観光サービスと視点を変えることにより有料サービスとする。
- 現行通り無料とする場合でも、貸出時に保証金を徴収して返却時に返すようにして、レンタル自転車の乗り捨てを防止する。

提言 2-3 過去の提言書の取扱い

第5次知立市総合計画（後期基本計画）

“いきいきとしたまち”『知』を生かし合うまちの実現に向けた提言

第5次知立市総合計画（後期基本計画）にも施策として「まちづくり情報の提供」が挙げられています。知立市まちづくり委員会の活動や提言書の公表は、その一環として行われていると考えられますが、さらに踏み込んで、提言書に対する市の取り組み状況を併せて公表することを提案します。

市民の市政やまちづくりへの参加を促進するためには、参加する意欲を高めることが重要です。その一つとして、参加することの効果を示すことが有効と考えます。パブリックコメントにおいても提出された意見への回答を公表しているように、知立市まちづくり委員会から出された提言についても市の取り組み状況を公表することによって、自分たちの意見やアイデアが市政に反映される効果を具体的に知ることができ、それが参加意欲を高めることにつながると考えます。

なお、過去の提言に対する市の取り組み状況を公表するにあたって、知立市まちづくり委員会に関する公式ホームページの構成についても、以下の通り改善を提案いたします。

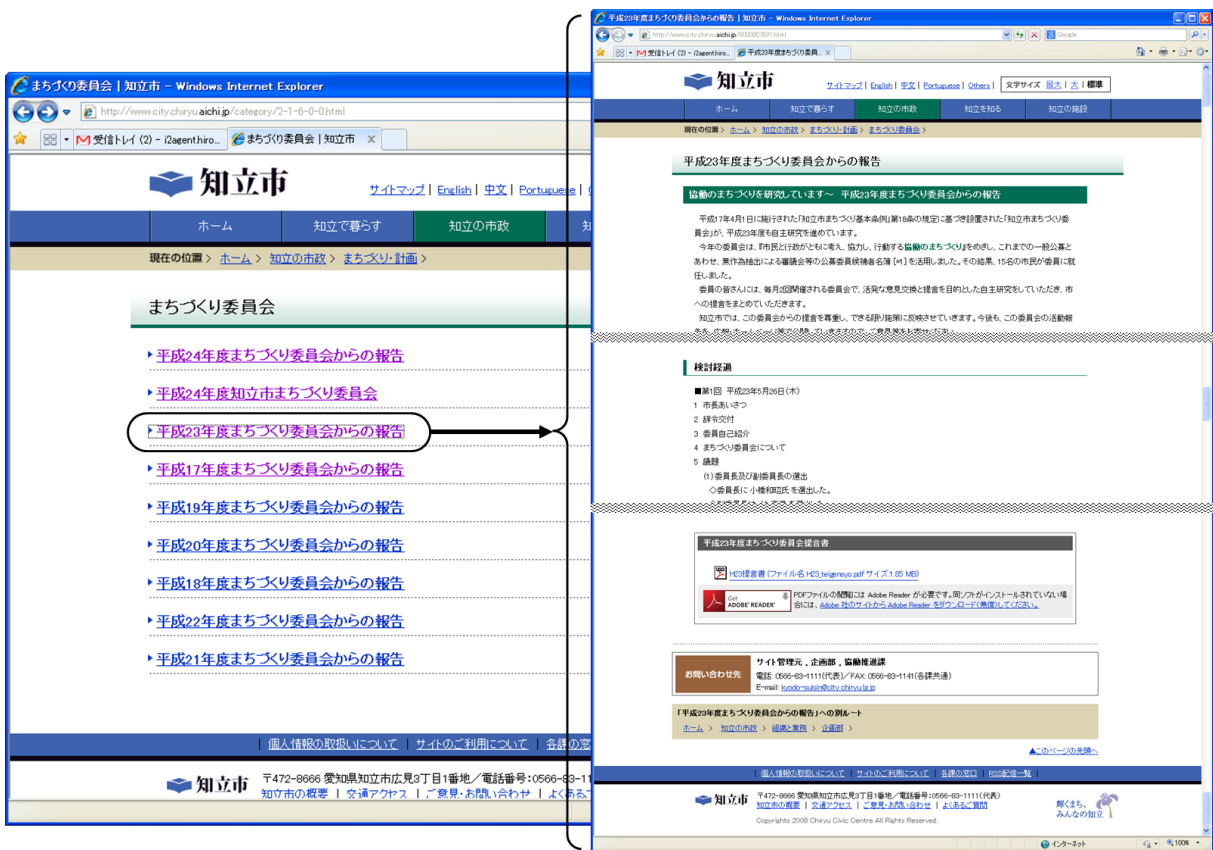
【現在の構成の問題点】 ※次ページ上段の図を参照下さい。

現在の構成では、年度毎に活動状況（毎回の実施日時と議題など）が列挙され、最後に提言書へのリンクが表示されています。そのため、提言書が閲覧・ダウンロードできることを、ページの最後まで見る（画面をスクロールする）までわかりません。さらに、活動状況は提言書にも記載されており内容が重複しています。

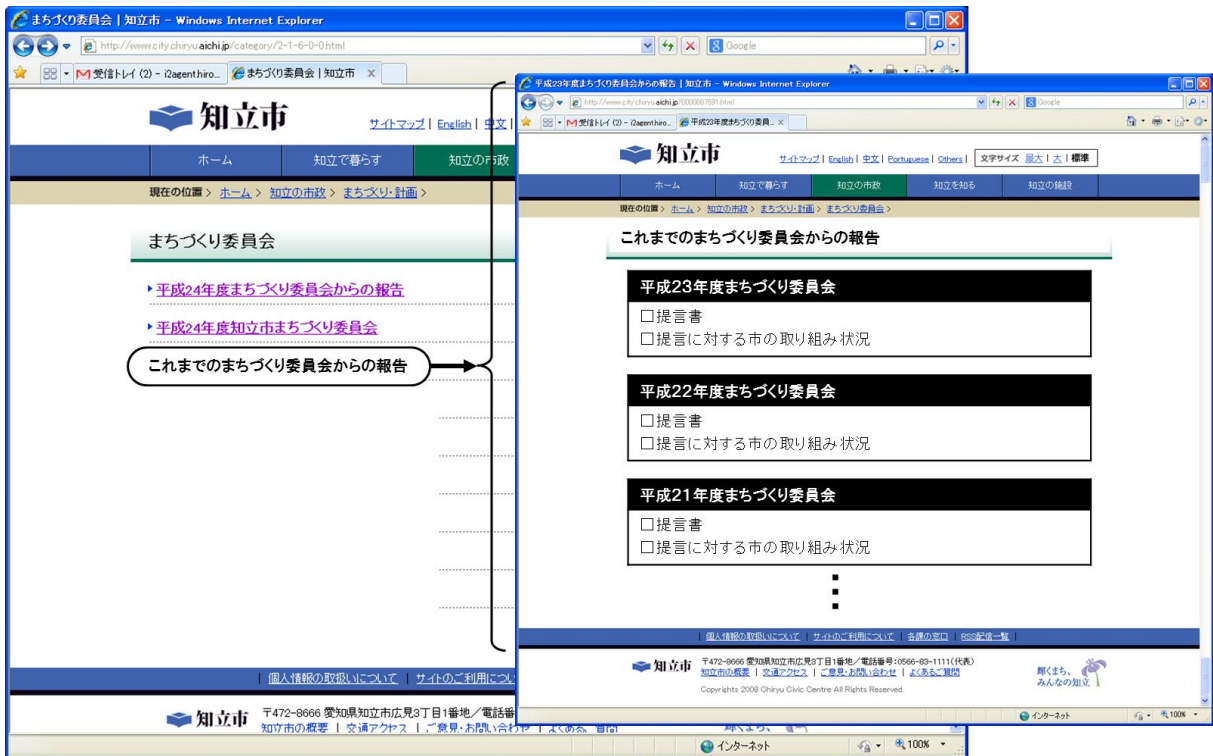
【改善案】 ※次ページ下段の図を参照下さい。

活動状況（毎回の実施日時と議題など）は当該年度のみとし、前年度以前については一つのページにまとめて、提言書と取り組み状況各々へのリンクのみを表示するよう提案します。これにより、過去の知立市まちづくり委員会から提出された提言書と、それに対する市の取り組み状況が公表されていることがわかりやすくなります。

【現在の構成】



【改善案】



提言 2-4 市内外へアピールできる商品の開発

第5次知立市総合計画（後期基本計画）

“ろまんを語れるまち”「人々が集う交流のまち」の実現に向けた提言

全国的にゆるキャラやB級グルメが流行っています。知立市でも「なりひらくん」、「かきつ姫ちゃん」、「こうぼっちゃん」などのキャラクターが考案されており、また、大あんまきは（B級グルメではありませんが）古くから土産物として知られています。また、最近では山本学園の生徒が新しいゆるキャラや新作大あんまきを考案したり、知立高校の知立プロジェクト同好会がオリジナル焼印付きの大あんまきを考案して様々なイベント会場で販売しています。こうした流れを継続、発展させることにより、市民に親しまれ、市外へのアピールにつなげるために、以下に提示する各項目について検討、実施していただきたい。

なお、あんまきは昨年、新たに地域産業資源に指定されました。これは中小企業支援の一環ですが、地域活性化にもつながることから、市による積極的な支援を要望します。

○知立高校や山本学園の生徒が考案したゆるキャラや新作大あんまきをアピールし、更に新たなアイデアを出してもらえるよう、市として強力にバックアップする。

○全国のあんまきを集めたイベントを知立市で開催する。継続して開催することにより、新作大あんまきの企画や大あんまきの売上向上につながると思われる。

○大あんまき製造販売の組合を作り、そこを中心に販売拡大を図る。

（例：静岡県法多山の「厄除だんご」）

以上